

来週の「売り物」記事はこれ



2014年10月10日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

空手一代 遥かなるアラブよ！

「ロレンス」になろうとした日本人 12日（日）



アラブの母なる川、ナイル。今年8月、一人の日本人男性の遺骨が散骨されました。男の名前は岡山県出身の岡本秀樹さん。アラブ世界に空手の種をまいた武道家でした。いまから5年前、67歳で亡くなりました。アラブ世界では「空手の父」とたたえられる岡本さんが「アラビアのロレンス」に憧れて中東の地に降り立ったのは1970年のこと。パレスチナゲリラ、中東戦争……。当時のアラブ世界は揺れていました。岡本さんも知らず知らずのうちにその渦に巻き込まれていきます。弟子にはエジプトで大統領として権勢を誇ったムバラクのファミリーや、イラクのサダム・フセインの家族も集まってきたのです。岡本さんは膨大な手帳を残していました。そこから立ち上がるのは……。関係者の証言なども交え、<アラブもう一つの「現代史」>をお届けします。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

赤字が大幅に拡大し、初の無配転落……

ソニーに何が起こっているのか

夕刊2面特集ワイド 14日（火）



ソニーの業績悪化が止まりません。スマートフォン事業の不振から、2015年3月期に2300億円もの連結最終（当期）赤字が予想されるとして、株主への配当を初めて見送ることを発表しました。小さな町工場からテープレコーダーやトランジスタラジオを日本で初めて発売し、世界企業への道を駆け上がったソニー。「ウォークマン」のようなライフスタイルを変える製品を生み、若者の憧れの的でもあった会社に何が起きているのでしょうか。衰退の理由と復活の処方箋を探ります。

プロ野球クライマックスシリーズ開幕

ファーストステージ 11日（土）～

ファイナルステージ 15日（水）～

プロ野球のクライマックスシリーズは11日、セ、パ両リーグのファーストステージ（3試合制）が開幕します。セはレギュラーシーズン2位の阪神と3位の広島が甲子園球場で、パは2位のオリックスと3位の日本ハムが京セラドーム大阪で対戦します。セは攻撃力はほぼ互角で、救援陣の出来が勝敗の分かれ目になりそうです。パはオリックス投手陣を、日本ハム打線が足を絡めた攻撃で攻略できるかが注目されます。先に2勝したチームが15日に開幕するファイナルステージ（6試合制）に進み、リーグ優勝した巨人、ソフトバンクと日本シリーズ進出をかけて対戦します。最終盤を迎えたプロ野球も毎日新聞でお楽しみください。



「別所哲也のスマートトーク」 おんなのしんぶん面 13 日（月）

おんなのしんぶん 

今回のゲストは、女優の樹木希林さん＝写真＝です。長く女優を続けられた理由や夫の内田裕也さんとの関係、がんとともに生きる心構えなどについて、うかがいました。



子育て～親子でおねしょ卒業 くらしナビ面 13 日（月）



小学校の入学時期になっても頻繁に続くおねしょは「夜尿症」とされています。大きくなってからのおねしょは、子どもの心に与えるダメージが大きく、親もつい叱ってしまいがちですね。専門医は、治療をすれば夜尿症の約半数は1年以内に治るといいます。治療の実際や、生活上の注意点を専門医にききます。

企画・産後ケアのいま くらしナビ面 15 日（水）から 3 回

晩婚、晩産化が進んだ影響などで、産後、年老いた実家の両親に育児・家事を助けてもらう「里帰り出産」ができない女性が増えています。一方、産後間もない女性は、産後うつなど、深刻なトラブルを抱えるケースも少なくありません。この時期、新米ママにどんな支援が必要か、当事者や専門家とともに考えます。



新聞週間特集

15 日（水）



15 日からの新聞週間に合わせて、今年度の新聞協会賞を受賞した『「太郎さん」など認知症の身元不明者を巡る『老いてさまよう』の一連の報道』などを特集します。「太郎さん」は2年前に認知症の疑いで大阪市内の路上で保護された男性で、身元が分からず仮名を付けられ介護施設で暮らしていました。東京本社特別報道グループの取材班は今年4月、この男性の存在を報じ、8日後に家族との再会が実現しました。合わせて、認知症の疑いで行方不明になり死亡確認された人が2012年に359人いたことや、鉄道事故により過去8年間で115人も亡くなっていることなどを報じ、警察庁や厚生労働省が対策に乗り出しました。日本新聞協会は「大きく発展した社会問題に先べんをつけたキャンペーンは、行政も巻き込んで問題を考える契機を作った」と評価して、新聞協会賞に選出しました。特集では「太郎さん」の近況や、認知症対策の先進地とされる福岡県大牟田市で毎年行われる「徘徊（はいかい）SOSネットワーク模擬訓練」の様子、取材記者の思いなどを報告します。「開かれた新聞」委員会の3人の委員にも意見や感想をうかがいました。